

# 4-1-1

## 第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

### 4-1 空港を生かした活気あふれるまちづくり



# 空港や空港周辺のポテンシャルを生かしたまちづくりを推進する

4年後の  
目指す姿

成田空港の更なる機能強化が進展し、空港周辺への企業立地が促進され、空港を生かしたまちづくりが実現しています。

4年間の  
取組方針

騒音対策の充実を図りつつ、空港周辺への企業立地の促進をはじめとした空港と周辺地域が持つポテンシャルを活用したまちづくりを進めるとともに、成田空港の更なる機能強化に対応するため、新たな都市基盤整備の取組みを推進します。

## まちづくり指標

指標名	単位	実績値			目標値
		平成26年度 (2014)	平成30年度 (2018)	令和4年度 (2022)	令和9年度 (2027)
地域経済牽引事業の 創出件数 【重点指標】	件	—	—	—	5
MICE開催件数	件	5	12	1	17

## 現状と課題

成田空港の更なる機能強化は、国際競争力の強化や空港利用者の利便性向上につながるだけでなく、人やモノの流れがさらに活発になるとともに、空港周辺地域への新たな企業の進出や雇用の拡大などが期待されています。

このような中、国道295号沿道や市内各インターチェンジ周辺をはじめとした、空港周辺地域における土地利用規制の緩和等による物流機能などの受け皿確保に向けて積極的に取り組むとともに、企業の進出を促すための施策が求められています。また、成田空港を擁する本市の特性を生かし、MICEの誘致を促進するなど、地域経済の活性化を図る必要があります。

一方で、成田空港の更なる機能強化に伴い、航空機の年間発着回数の更なる増加が見込まれることから、より一層の騒音対策の充実を図り、空港を生かしたまちづくりの実現に向けた取組みが求められています。



## 施策の方向

### 1 空港周辺への企業立地を促進します。

地域未来投資促進法に基づく基本計画及び空港周辺地域の開発許可基準の見直しや国家戦略特区制度を活用し、国道295号沿道や市内各インターチェンジ周辺等の土地利用規制の緩和等を図り、物流・空港関連産業などの企業立地を促進します。

主な事業 企業立地促進事業

### 2 MICEの誘致促進を図ります。

成田空港を擁する本市の特性を生かすことにより、空港周辺施設等のMICE受入れ体制の充実化を図ります。さらに、ちば国際コンベンションビューロー等の関係機関と連携し、様々な形態のMICEの誘致を推進します。

主な事業 国際観光振興事業

### 3 航空機騒音対策の充実を図りつつ、成田空港の更なる機能強化に向けた取組みを進めます。

関係機関と連携して、住宅防音工事への補助など騒音対策の一層の充実を図るとともに、C滑走路の整備をはじめとした成田空港の更なる機能強化に向けた取組みを進めます。

主な事業 民家防音家屋等維持管理費補助事業、住宅防音工事補助事業、成田空港周辺地域共生財団支援事業

## 市民の役割・行政の役割

### 市民の役割

- 成田空港の更なる機能強化への理解
- 空港周辺地域の現状の把握

### 行政の役割

- 規制緩和実現に向けた関係機関との協議
- 成田空港の更なる機能強化への取組み
- 騒音対策の充実

## 関連する個別計画

- 成田市都市計画マスタープラン、成田市立地適正化計画、市街化調整区域における土地利用方針、非線引き都市計画区域における土地利用方針、成田市観光振興基本計画



# 4-1-2

## 第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

### 4-1 空港を生かした活気あふれるまちづくり



# 空港を活用し新たな成田の魅力を発信する

4年後の  
目指す姿

成田空港を擁する特性を生かした観光施策の取組みと、スポーツツーリズムの推進により、多くの方が本市を訪れています。

4年間の  
取組方針

本市の恵まれた観光資源を生かした観光地づくりや、地域資源を活用した魅力的なスポーツツーリズムを推進することにより、交流人口の拡大を図ります。また、本市の魅力を国内外へ発信することにより、成田ブランドの一層の推進を図ります。

## まちづくり指標

指標名	単位	実績値			目標値
		平成26年度 (2014)	平成30年度 (2018)	令和4年度 (2022)	令和9年度 (2027)
誘致したスポーツ大会等の 参加者数 【重点指標】	人	1,284	13,782	10,593	15,000
観光入込客数 【重点指標】	万人	1,402	1,590	973	1,800

## 現状と課題

成田空港を擁する特性を生かした様々な観光施策を実施するとともに、大規模なスポーツイベントの開催や事前キャンプ等の受入れを行うなど、スポーツツーリズムを推進しています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の出入国制限の緩和に伴いインバウンド需要が見込まれることから、にぎわいと活力あるまちの復活に向けて、既存の観光資源の磨き上げや恵まれた自然、風景などの地域資源を生かした観光地づくり、そして、新たな観光資源を掘り起こし持続可能な観光地づくりを推進していくことが求められています。また、これまで実施してきたスポーツ振興の取組みを発展させるとともに、本市ならではの魅力的な地域資源を有効活用し更なるスポーツツーリズムの推進を図り、本市の魅力を積極的に国内外に発信していく必要があります。



## 施策の方向

### 1 スポーツツーリズムを推進します。

世界・全国規模の大会やプロスポーツの試合の誘致、大規模スポーツイベント等の事前キャンプ・合宿の受入れ等に取り組み、体制の整備を図りながら、地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進を図ります。

主な事業 スポーツツーリズム推進事業、各種競技大会誘致事業

### 2 国内外での成田の知名度向上を図ります。

成田空港の更なる機能強化を絶好の好機と捉え、戦略的かつ効果的な情報発信を行うことにより成田の魅力をPRするとともに、新生成田市場を活用して、本市をはじめとする日本の農水産物の美味しさを世界に発信することで、更なる成田の知名度向上を図ります。

主な事業 観光PR事業、観光活性化事業、成田ブランド推進戦略事業、輸出促進事業

## 市民の役割・行政の役割

### 市民の役割

- スポーツイベントへの積極的な参加
- 競技大会の観戦
- 成田の魅力の国内外への情報発信

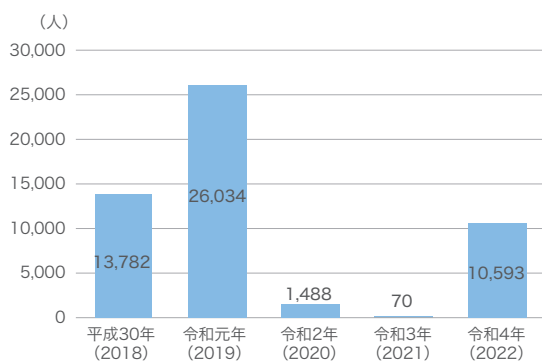
### 行政の役割

- スポーツツーリズムの推進
- 成田ブランドの推進
- 積極的な情報発信

## 関連する個別計画

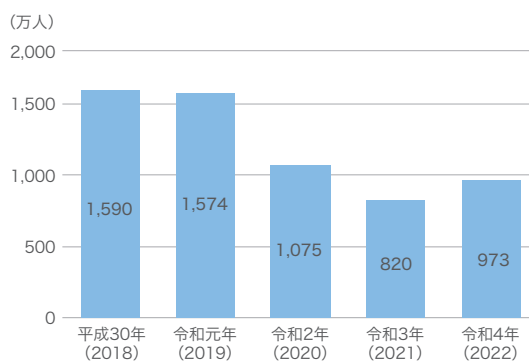
- 成田市スポーツ振興マスタープラン、成田市スポーツツーリズム推進戦略、成田市観光振興基本計画

誘致したスポーツ大会等の参加者数



■ 誘致したスポーツ大会等の参加者数 資料: スポーツ振興課

観光入込客数



■ 観光入込客数 資料: 観光プロモーション課

# 4-2-1

## 第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

### 4-2 魅力ある機能的なまちづくり



# 地域特性を生かした土地利用と 空港の更なる機能強化を見据えた 快適な市街地形成を図る

4年後の  
目指す姿

成田空港の更なる機能強化が進展し、秩序ある効率的なまちづくりが進み、暮らしやすいまちが広がっています。

4年間の  
取組方針

「成田らしさ」を生かした幅広い世代にとって魅力的で機能的なまちを目指し、都市機能の効率化や充実を図るとともに、地域特性や資源を活用することで、にぎわいのある誰もが安心して快適に暮らせる市街地の形成に努めます。

## まちづくり指標

指標名	単位	実績値			目標値
		平成26年度 (2014)	平成30年度 (2018)	令和4年度 (2022)	令和9年度 (2027)
市域全体のうち市街地内の 新築建築物割合	%	77.7	83.7	80.8	<b>87.0</b>
地区計画の決定数	地区	11	14	15	<b>19</b>

## 現状と課題

市民が暮らしやすく、調和のとれた町並みを整備するため、土地利用の適正化に取り組むとともに、中心市街地等の都市機能の充実や地域特性を生かした土地利用の推進を図っています。

今後、人口減少や高齢化といった社会課題への対応を要する一方で、成田空港の更なる機能強化などによる新たな人口流入等への対応も求められており、既存市街地の維持を図るとともに、適切な居住誘導を進めていく必要があります。

あわせて、成田山新勝寺をはじめとした豊かな景観や、印旛沼や里山などの恵まれた自然環境、成田空港の持つ国際性など「成田らしさ」が感じられる多様な資源を活用した本市の魅力を向上させ、にぎわい創出や快適な市街地の形成を図るための取組みを推進していく必要があります。



## 施策の方向

### 1 秩序ある効率的なまちづくりを推進します。

都市機能の集約化や居住の誘導を図ることで、秩序ある効率的なまちづくりを推進します。また、新たな住宅用地や産業集積拠点の形成にあたっては、土地区画整理事業や地区計画などを活用し、地域特性を生かした土地利用を推進します。

主な事業

都市計画策定事業、不動ヶ岡土地区画整理事業、(仮称)吉倉・久米野土地区画整理事業、(仮称)東和田南部土地区画整理事業

### 2 にぎわいのある快適な市街地を整備します。

JR成田駅西口地区をはじめとした公共空間の整備や利活用によるにぎわいの創出、また、魅力ある施設の整備及びバリアフリー化を推進します。景観形成重点地区である表参道では、門前の町並みにふさわしい良好な景観を保全・創出します。

主な事業

JR成田駅西口市有地活用推進事業、表参道整備事業、景観計画推進事業

### 3 ニュータウン再生に向けた取組みを推進します。

赤坂センター地区に整備を予定している複合施設をニュータウン地区の新たな核とし、良好な居住環境を有する住宅地等の都市インフラの有効活用によるストック効果を図ることも視野に、地域全体の活性化につながるようなまちづくりを推進します。

主な事業

都市再生整備推進事業、赤坂センター地区複合施設整備事業

## 市民の役割・行政の役割

### 市民の役割

- 土地利用の適正化への理解・協力
- 建築行為や開発行為に係る指導の順守
- 地域でのまちづくり活動への積極的な参加

### 行政の役割

- 適正な土地利用の誘導
- 地域でのまちづくり活動への支援
- 市街地のにぎわい創出

## 関連する個別計画

- 成田市都市計画マスタープラン、成田市立地適正化計画、市街化調整区域における土地利用方針、非線引き都市計画区域における土地利用方針、成田市景観計画



# 4-2-2

## 第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

### 4-2 魅力ある機能的なまちづくり



# 道路ネットワークと交通環境を整える

4年後の  
目指す姿

主要幹線道路の整備により、良好な道路空間が提供されるとともに、公共交通の更なる充実により、交通利便性が向上しています。

4年間の  
取組方針

成田空港の更なる機能強化を見据えた幹線道路網の計画的な整備を推進していくとともに、既存道路施設の適切な維持管理に努めます。また、市民の交通利便性の向上を図るため、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築を目指します。

## まちづくり指標

指標名	単位	実績値			目標値
		平成26年度 (2014)	平成30年度 (2018)	令和4年度 (2022)	令和9年度 (2027)
幹線道路整備完了 路線数 (H28~)	路線	—	3	4	18
コミュニティバスの利用者数	人	231,003	224,659	179,207	223,000
橋りょう長寿命化 修繕工事実施数	橋	6	52	71	107

## 現状と課題

主要幹線道路や生活道路を計画的に整備するとともに、民間路線バスなどの公共交通事業者と連携し、交通アクセス及び利便性の向上を図っています。また、橋りょうなどの既存道路施設の適切な維持管理や計画的な修繕を実施し、安全性の確保に努めています。

今後、公共交通については、市民の交通利便性の向上を図るため、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築するとともに、新たな都市基盤整備に向けた鉄道構想駅の実現が求められています。また、成田空港の更なる機能強化を見据え、空港周辺では新たなまちづくりを推進しており、増加する交通需要を適切に受け止め、更なる利便性向上と地域の発展のため、東関東自動車道をはじめとする広域道路ネットワークとの連携強化の必要性が高まっています。



## 施策の方向

### 1 主要幹線道路及び生活道路の整備を進めます。

成田空港の更なる機能強化や新たなまちづくりを見据え、主要幹線道路の整備に加え、東関東自動車道をはじめとする広域道路ネットワークとの連携強化を図ります。また、生活基盤の充実を図るため、生活道路の整備を推進します。

主な事業 幹線道路整備事業、生活道路整備事業、東関東自動車道インターチェンジ連絡道路整備事業

### 2 公共交通の利便性向上を図ります。

市民の更なる交通利便性の向上を図るため、コミュニティバスの運行の改善に努めるとともに、民間路線バスの運行支援を行います。また、「地域公共交通計画」に基づき、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築を図ります。

主な事業 コミュニティバス運行事業、路線バス運行支援事業、公共交通計画推進事業

### 3 道路施設の適切な維持管理に努めます。

法令点検の結果を踏まえて修繕計画を定期的に見直し、効率的な修繕工事を継続することで安全、安心な利用環境を保持します。また、国の方針に基づき、長寿命化に向けた新技術の活用や既存の橋の統廃合などに関して検討します。

主な事業 市道維持修繕事業、道路等補修事業、橋りょう補修事業

### 4 鉄道アクセスの強化を図り、市民の利便性の向上を促進します。

成田空港の更なる機能強化に向けて、空港アクセスをはじめとした鉄道輸送力の強化を図るため、都心直結線や単線区間の複線化などの実現を目指し、関係機関と連携を図ります。また、(仮称)土屋駅及び(仮称)吉倉駅の実現に向けた取組みを進めます。

主な事業 鉄道計画推進に関する経費、芝山鉄道補助事業

## 市民の役割・行政の役割

### 市民の役割

- 道路の破損・不良箇所についての連絡
- 積極的な公共交通機関の利用

### 行政の役割

- 道路整備の推進
- 道路の安全性の確保
- 公共交通機関の利便性の向上への取組み

## 関連する個別計画

- 成田市幹線道路網整備計画、成田市橋梁長寿命化修繕計画、成田市地域公共交通計画

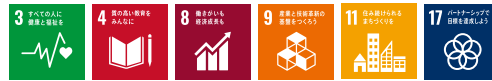




## 4-2-3

### 第4節 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる（空港・都市基盤）

#### 4-2 魅力ある機能的なまちづくり



## 大学を活用したまちづくりを推進する

4年後の  
目指す姿

大学が身近となることで、にぎわいのあるまちが実現し、市民の保健・医療・福祉への意識が向上しています。

4年間の  
取組方針

国際医療福祉大学との連携の充実を図り、保健・医療・福祉など様々な専門的知識や技術、人材をまちづくりに積極的に活用します。また、国際医療福祉大学成田病院を核とする医療関連産業の集積などにより、新たなまちづくりを推進します。

### まちづくり指標

指標名	単位	実績値			目標値
		平成26年度 (2014)	平成30年度 (2018)	令和4年度 (2022)	令和9年度 (2027)
国際医療福祉大学との 連携事業数	件	—	32	60	65

### 現状と課題

国際医療福祉大学が開学したことにより、大学の専門的な知見や人材などを活用したまちづくりを推進しています。

大学では、令和5（2023）年3月に医学部から初の卒業生が輩出され、今後は全国平均を下回っている千葉県内の人口当たりの医師数や看護師数の改善に寄与していくものと期待されます。また、令和6（2024）年4月には、臨床に強い薬剤師の養成を目指して、成田薬学部が新設されることから、全国屈指の医療福祉の総合大学として、地域医療の担い手となる医療福祉専門職の育成が、本市において一層進められることとなります。

本市と大学とは、保健・医療・福祉をはじめとする様々な分野において連携協力を行い、地域との交流やまちの活性化に向けた取組みを進めています。今後も、大学の持つ専門的な知識や技術、人材などを最大限活用し、市民の健康増進や知見の向上を図るとともに、更なる地域医療体制の充実や地域の活性化などの推進が求められています。

また、国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業の集積等に伴う都市機能や住環境の整備など、新たな都市基盤整備に向けた取組みを積極的に推進し、大学を活用した魅力的で活気あふれるまちづくりの実現が求められています。



## 施策の方向

### 1 大学との連携を図ります。

国際医療福祉大学と地域との交流やまちの活性化に向けた取組みとして、地域医療や救急救命体制の充実、高齢化社会への対応など多分野にわたる協力関係の確立に努めるとともに、医療人材の育成に寄与することにより、地域医療の更なる充実を図ります。

主な事業 国家戦略特区推進事業、地域医療対策事業

### 2 国際医療福祉大学成田病院を核としたまちづくりを推進します。

国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業の集積等に伴う都市機能や住環境の整備など、新たな都市基盤整備に向けた取組みを積極的に推進し、魅力的で活気あふれるまちづくりを実現します。

主な事業 まちづくり戦略推進事業、(仮称)吉倉・久米野土地区画整理事業、(仮称)東和田南部土地区画整理事業

## 市民の役割・行政の役割

### 市民の役割

- 大学連携への理解
- 連携事業への積極的な参加

### 行政の役割

- 大学との連携協力体制の確立
- 大学との連携事業の実施
- 連携事業実施の周知

## 関連する個別計画

- —

